

許尾ハ下ニ曲リテ海老ニ同ジ、一種アナゴ。尾州ハ一名イシハジキ、肥後タイコウチ、攝州シヤクエビ、讀州長サ一寸餘、一手ハ小タ、一手ハ長大ニシテ、堅田エビノ形ノ如シ、是モ亦郡武府志ノ大脚蝦ナリ。

〔日本山海名產圖會三〕海鰻漢名蝦鰻釋名紅鰻エビは總名なり種類凡

余種其中に漢名龍鰻といふは海蝦なり

俗稱伊勢海鰻と云、是伊勢より京師へ送る故に云なり、又鎌倉より江戸に送る故に、江戸にては鎌倉鰻と云、又志摩より尾張へ送る故に、尾張にては志摩鰻と云、又伊勢鰻の中に五色なる物有甚奇品なり、鬚白く背は碧重のところの幅輪綠色、其他黃赤黒相雜、○中

鰻の腸腦に屬して、其子腹の外に在り、眼紫黑にして前に黃なる所あり、突出て疣子のごとし、口に鬚四ツあり、二ツの鬚は長さ一二尺、手足は節ありて蘆の筍のごとし、殻は悉く硬き甲のごとし、好飛で踊る、是海中の蚤なり、蚤亦總身鰻におなじ、

エビの訓義は柄鬚えびなり、柄は枝なり、胞といひ、江と云も、人の枝、海の枝なり、蝦夷をエビシといふは、是毛人島なるになぞらへ、正月辛盤さわいばんに用ゆるは、海老の文字を祝したるなるべし、

〔延喜式二十四〕凡中男一人輸作物○中 海老一升、

〔出雲風土記島根郡〕凡南入海所在雜物○中 鯛鰻海松等之類至多不可盡名、

〔出雲風土記秋鹿郡〕南入海、春則有○中 鯛鰻等大小雜魚、

〔田氏家集上〕賦海老卅字絕句、

脫泉枯又槁、躅脊長髯稱海老、應似朝中緋衣一大夫、形消命薄不作明時好、

〔大館常興日記〕天文八年十二月廿日、海老十籠爲歲暮祝儀、北畠殿より進上之御賀例也、則以佐披露申之、仍海老をば政所代鰻川新右衛門尉かたへ納申之、請取富左かた出也、

〔親俊日記〕天文十一年正大十八日己亥、永原與三右衛門所へ海老五十爲音信遣之、